

標準作業を基礎に進化させたロボット化ラインの導入

売れない物まで造り続けた大量計画生産の時代から売れるモノだけをつくる受注生産をめざし、40年以上ただただ、標準作業の確立とリードタイム短縮を目標としてラインづくりを行ってきた。

最初はプレス加工工程の自動化、次に塗装工程の自動化へと。

そして、それら設備を作業者に多台持ちさせ、そこからプレス工程と塗装工程・外観検査をつなげて、今日仕掛けたものが数時間後に完成品となる一貫ラインを完成させた。

この一貫ラインの標準作業化を進め、そこからムリ・ムラ・ムダを排除し続け、改善を続けて生産性向上をめざし続けて来た。

そして、今まで行って来た、この取り組みこそが現在推進しているロボット化への移行を容易に実現させている1つの要因となっていることは、紛れもない事実だと思っている。

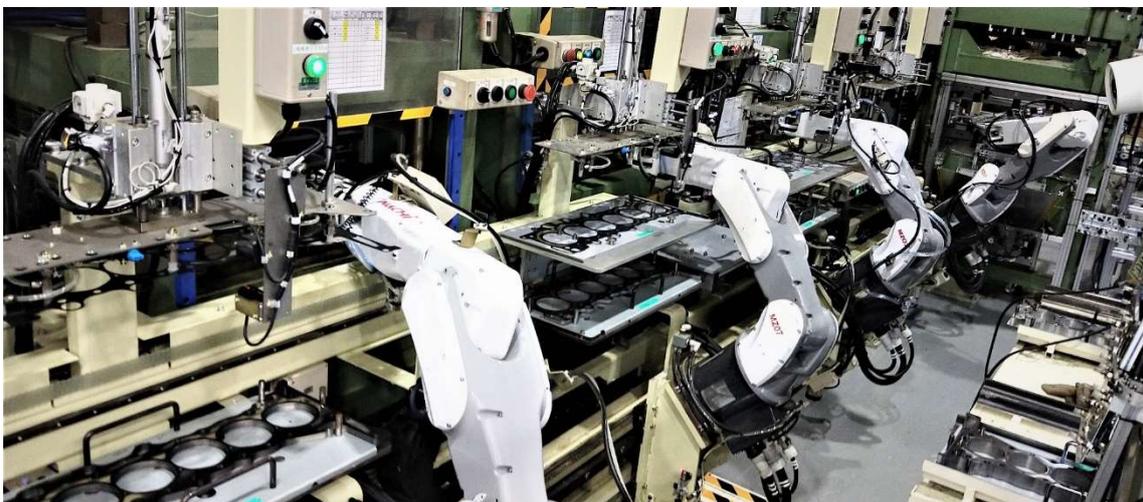
当社の自動化は数だけを追い続ける生産性向上ではなく、リードタイム短縮はマストな目標としており、既に最新の生産ラインにおいては外観検査以外、自働化・ロボット化により自働組立ラインが確立出来るまでになった。

今後は外観検査も自働化させ、段取りを行うラインリーダーのみの生産ラインをめざす。

少子高齢化、労働者が確保出来ない今の時代ですが、それでも標準作業の確立とリードタイム短縮に拘り続けながら国内生産をあきらめることなくチャレンジは続く。

※Cherry History は今回の掲載をもって終了とさせていただきます。

今までご愛読ありがとうございました。掲載は今回で終了しますが石川ガasketはこれからも歴史を積み上げて行きます。



全自働組立ロボットライン